

Title	退官にあたって
Author(s)	橋本, 良一
Citation	年報いわみざわ : 初等教育・教師教育研究, 12: 55-55
Issue Date	1991-03
URL	<a href="http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/8561">http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/8561</a>
Rights	本文ファイルはNIIから提供されたものである。

# 退官にあたって

橋本良一

この「年報いわみざわ」は、岩見沢分校が初等教育を主とする課程への整備を行なった際に、発行が計画され、1979年度第1号が出されたと記憶していますが、この課程再編成によって私の属する英語科は小学校教員養成課程の学生を専攻生として受入れ、専攻生は小学校教員の免許状のほかに高等学校と中学校の英語科教員免許状のための単位を取り、英語で卒業論文を作製することになり、定員も2名から10名に増えました。以来、現在まで卒業生は中学校教員養成課程があった時と同様に、高校と中学校で英語を教えています。小学校の教壇に立っている者もかなりの数に達しています。こういう卒業生たちが外国語教科のない小学校で、大学で受けた専門教科をどのように生かせるか、また生かしているのかは気になるところですが、英語の専門科目を学んだ教師が居て学校に貢献していることを、数人の小学校長から聞いて意を強くしています。

この間私の専攻する英語学にも大きな発展があり、各分野がより一層深く研究されるようになった一方、新しい領域として意味の伝達や言語間の対照研究が盛んになりました。私の講義内容も、このような英語学の傾向を反映し、他方小学校での教育を意識して、国語との比較に言及することが多くなり、最近では英語話者に日本語をどう教えるかというテーマを取り上げました。学生の方も女性語、日本人の英作文、和製英語など以前よりも広く諸相に興味を持ち卒業論文のテーマとして取り上げるようになっていましたし、この5年間に2人の専攻生がアメリカに長期留学し1名がカナダで短期研修をしています。この数年来、北海道教育大学として、また分校として国際交流のための組織が出来て着々と実績を上げつつあることも喜ばしいことだと思います。

初等教育を主とする研究誌である「年報いわみざわ」には、英語学という専攻分野からの論文を寄稿する機会はありませんでしたが、あらためてバックナンバーを見ますと「岩見沢分校の整備状況」として課外活動共用施設と自然観察園（第4号・1982年）と学生寮新築、女子学生寮増築（第5号・1983年）の記事を寄せています。これらは常務委員会を代表して書いたものですが、自然観察園の中を初めて歩いたとき43,728㎡という広さと自然のままの姿を見て、分校の環境の多様さに深い感銘を受けたことを思い出します。この年の6月には常務委員会が教官会議で呼びかけ、教官・職員・学生が出て整地や植樹の作業を行ない、私が昭和39年に初出勤した旧校舎の跡地は、その後の手入れもあって立派な前庭となりました。停年退官で去ることになる3月末にはまだ雪で覆われていると思いますが、学生数に比して他に類をあまり見ない広大な敷地を持った分校が、美しい環境を保ちながら、大学院や附属小学校など長年の計画を達成して、ますます発展することを祈ります。

（本分校 英語学研究室）